

令和6年度補正予算 廃棄物資源化・処分事業

1 生ごみ資源化処理委託

(1) 概要

期 間：令和7年3月1日から7月31日まで

処理先：横浜市鶴見区末広町2丁目1-15 Jバイオフードリサイクル横浜工場

処理量：125トン/月

資源化：湿式メタン発酵によるバイオガス化、肥料化

処理費：4,812,500円/月

別添1：Jバイオフードリサイクル リーフレット

別添2：食品由来のSDGs資肥料 フライヤー

(2) 事業者の取引先

民間事業者：食品リサイクル法に基づく食品関連事業者（製造、卸売、外食等）

(3) 肥料の利活用

メタン発酵後の残さをバイオ固形肥料【はまのみのり】として、肥料登録し、農家の方に供給しているものです。

生ごみ堆肥利用実験でご協力いただいた農家の方や南郷上ノ山公園で生ごみ堆肥をご利用いただいた町民の方にお声がけし利用をしていただくことを考えております。

2 広域共同処理施設負担金

可燃ごみ及び容器包装プラスチックの共同処理を逗子市と行っており、令和5年度決算に伴い各市町の負担金額が確定し、逗子市が令和5年度中に行った焼却施設維持管理事業の中で委託料において当初予定していなかった煙突点検調査業務委託が発生したこと及び実際の処理量が当初見込みより少なかったため当初原価より単価が上昇し、年度当初予測されていた負担金清算額より上昇したため、負担金の不足分を計上。

会社概要

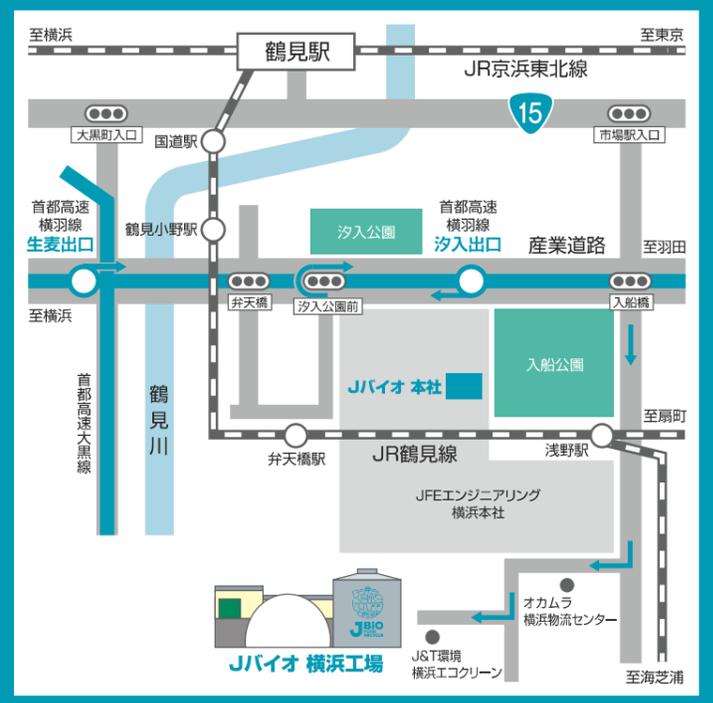
社名	株式会社Jバイオフードリサイクル	事業内容	食品リサイクル・バイオガス発電事業、 一般廃棄物処理業、産業廃棄物処理業
本社/所在地	神奈川県横浜市鶴見区弁天町3番地1	工場/所在地	神奈川県横浜市鶴見区末広町二丁目1番5
設立	2016年8月1日	受入量	120t/日 (固形80t+液体40t)
代表者	蔭山 佳秀	処理品目	一般廃棄物 (食品廃棄物) 産業廃棄物 (動植物性残渣・汚泥・廃酸・ 廃アルカリ)
資本金	6,000万円	発電量	約1,700万kWh/年 ※一般家庭の約5,700世帯分の年間使用電力量相当
株主	JFEエンジニアリング株式会社 J&T環境株式会社 東日本旅客鉄道株式会社 株式会社JR東日本環境アクセス	CO ₂ 削減量	約7,800t-CO ₂ /年

許認可情報

一般廃棄物処分業許可証
[許可番号:1311号]



産業廃棄物処分業許可証
[許可番号:第05620202224号]



株式会社 Jバイオフードリサイクル

〒230-0044 横浜市鶴見区弁天町3番地1
TEL : 045-505-7845 FAX : 045-505-7467
URL : <https://www.j-bio.co.jp/>



ウェブサイトはこちら

JFEグループとJR東日本グループの協業による 食品リサイクル & バイオガス発電事業



株式会社 Jバイオフードリサイクル



5つの特長

地球環境にやさしい 食品リサイクル



食品廃棄物を焼却処分しないことでCO₂排出量を削減
微生物の働きで食品廃棄物からバイオガスを生成し、その燃焼
によって電力を創出しリサイクルします。食品廃棄物の潜在エネ
ルギーを引き出す「もったいない」を大切にしたい事業展開です。

リサイクル率 100%に向けて



工場から出る廃棄物もサーマルリサイクルや肥料へ
有機物はバイオガス発電、容器プラスチック等はサーマルサイ
クルによってエネルギー回収します。また、発酵残さは肥料化、
使用した水は工場内で再利用します。工場から出る廃棄物を減
らし、地球環境にやさしいリサイクルを実現します。

安全・安心の大手事業者 信頼のワンストップ



大手2社のグループが協働し一貫したサービスを実現
食品廃棄物の収集・運搬 ~ リサイクル処理 ~ 売電・電力供給
まで、ワンストップで事業を展開し、排出事業者様のCSRの
取り組みをサポートしていきます。

トリプルセキュリティ 確実なリサイクル



リサイクル対象品を確実に処理

①JFEグループ内の事業用地に立地 ②プラント敷地内、施設
内随所に高感度監視カメラ設置 ③遠隔操作による常時監視
体制によって、盗難等を未然に防止します。

首都圏アクセス好立地



首都圏アクセスの要衝、横浜・鶴見にプラント立地

食品廃棄物を多く排出する首都圏で、アクセス良好な京浜
エリアの横浜・鶴見にリサイクルプラントが立地しています。

地球環境にやさしい、排出事業者様にもやさしい - 100%リサイクルへ

事業内容

Jバイオフードリサイクルは、微生物
の働き(メタン発酵)によって、食品
廃棄物からバイオガスを発生させ、
再生可能エネルギーとして発電し、
電力を供給するサービスを展開い
たします。

また、ご希望により食品廃棄物を
弊社にお任せいただいた排出事
業者様に食品廃棄物から得られた
電力をJFEグループの「アーバンエナ
ジー」を通じて還元するオプション
サービス「創電割[※]」もご用意いた
しております。

※「創電割」…廃棄物処理+電力供給サービス



1 リサイクル資源の受入

食品廃棄物(一廃)、
動植物性残渣・汚泥・廃酸・廃アルカリ
(産廃)

排出時の荷姿、内容物に関わらず、JFEグループ
「J&T環境」ならびにJR東日本グループ「JR東日本
環境アクセス」が安全・安心の収集・運搬を担当
いたします。

2 前処理室

食品廃棄物等の破砕・分別装置

受け入れた食品廃棄物等を破砕し、
発酵に適した有機物と容器、包装紙
等を分別します。

3 調整槽

分別した有機物を
水分調整し発酵槽
に送ります。

8 排水処理施設

排水は生物処理されたのち、調整
槽の希釈水等として再利用され
ます。

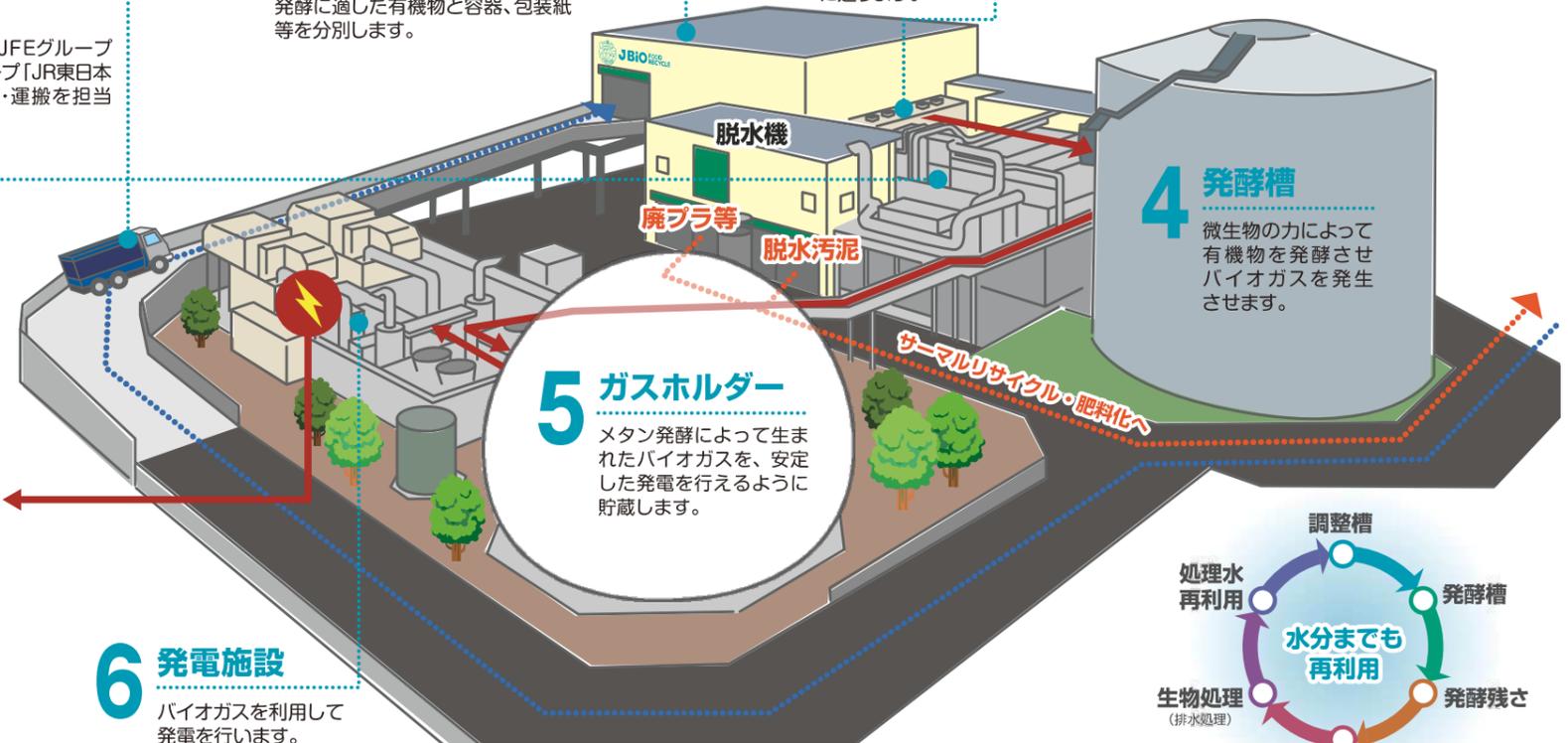
※余剰処理水は下水放流します。

7 再生可能エネルギー

排出事業者様には、再生可能エネ
ルギーを「アーバンエネルギー」を
通じてご提供するサービスもござ
います。
詳しくは、営業担当にお気軽に
お尋ねください。

6 発電施設

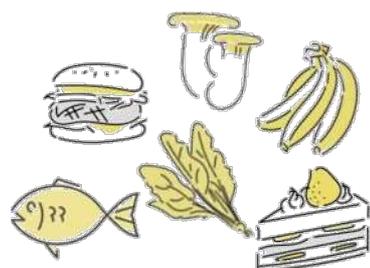
バイオガスを利用して
発電を行います。



“捨てられてしまった食品”を再び“食品”へ

食品由来のSDGs肥料

飲食店 食品工場



食品廃棄物

Jバイオ



メタン発酵



発電

農家



肥料

特徴

- ・23日間かけて発酵してできる肥料で**窒素等の肥料成分**を含みます
- ・微生物を含む肥料なので**土壌の生物性改善**が見込まれます
- ・年間を通して栄養成分の比率が**安定**しています
- ・原料は食品廃棄物のみなので**安全**です
- ・化学肥料より**安価**に提供可能です

お客様の声

地球に優しく、肥料代も抑えられる肥料と聞き使ってみました。施肥にあたってはアドバイスやサポートもしてもらるので大変助かりました。作物の育ちも非常によく、食味もよくなったので、他の作物にも試してみようと思っています。

農家 / 神奈川県 藤沢市



株式会社 Jバイオフードリサイクル

- ・JFEエンジGrとJR東日本Grが出資して設立した会社です。
- ・微生物の働きで食品廃棄物から生成したバイオガスを利用して電力を創出します。食品廃棄物の潜在エネルギーを引き出す「もったいない」を大切にしたりサイクル事業を展開しています。



成分表示および荷姿

項目	はまのしずく (バイオ液肥)	はまのみり (バイオ固形肥料)
水分	96.3%	78.2%
窒素全量 (内アンモニア性窒素)	0.35% (0.19%)	1.4% (0.20%)
リン酸全量	0.07%	0.53%
加里全量	0.14%	0.15%
炭素窒素比	5	7
荷姿 (提供形態)	タンク、ローリー車	フルトン、コンテナ車



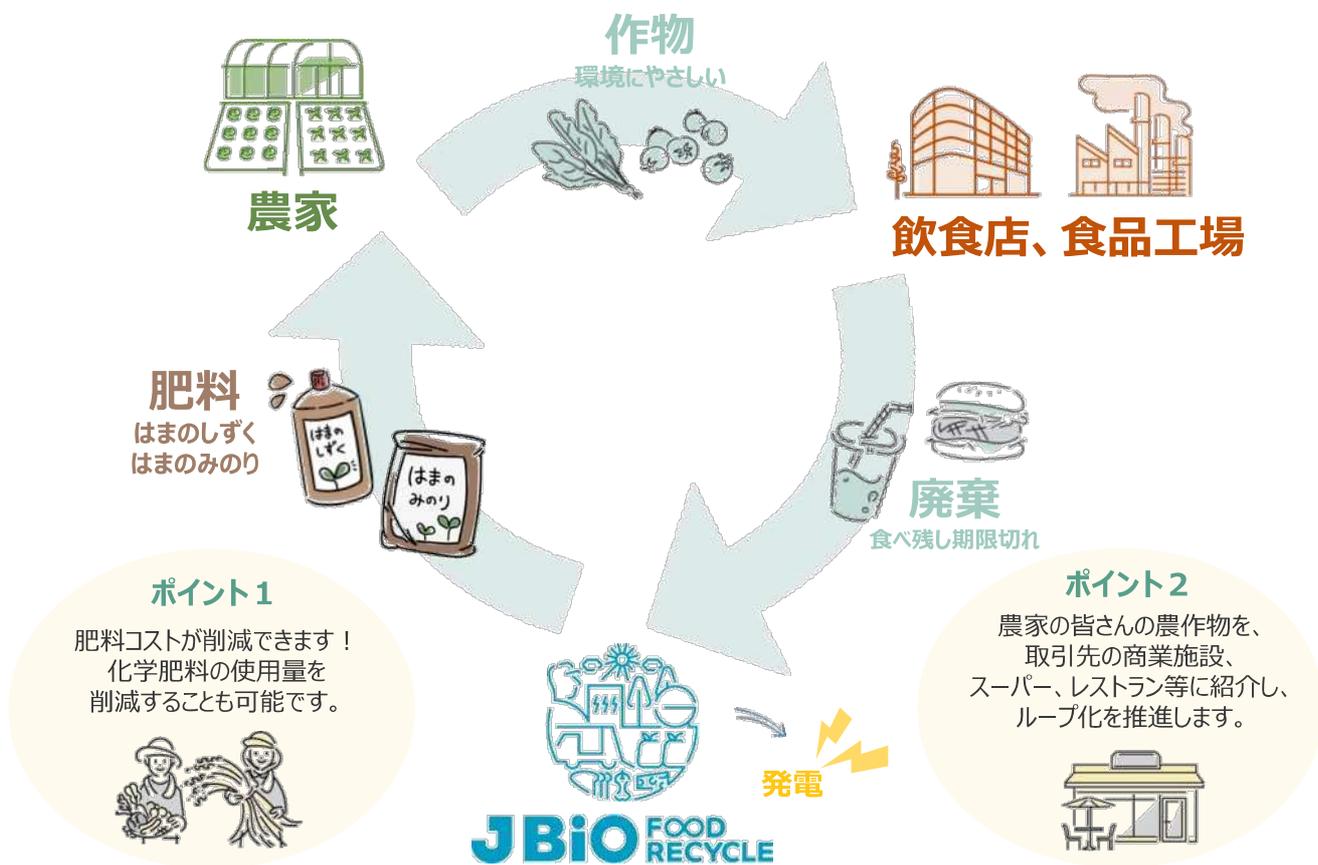

はまのしずく
登録証はこちら




はまのみり
登録証はこちら

農業リサイクルループ

「捨てられてしまった食品」が肥料に生まれ変わります。
この肥料が農作物を育て、また食品へと戻る、人と社会と環境をつなぐエコな取り組みです。



リサイクルの環『わ』を一緒に広げませんか！

留意事項

- ・施肥方法は農地によって異なるため、ご相談・実証のうえでご利用ください。
- ・施用後すぐ土と混ぜるとアンモニア態窒素が土に吸着し揮散を抑制します。施用後3~7日空けてからの播種が望ましいです。
- ・有機物が原料のため、肥料そのものは臭気がありますが、土壌にすき込んで1日程で低減されます。
- ・2~3mmのスクリーンを通過していますが、若干の未分解の食物繊維やプラスチック類が混入することがございます。

問い合わせ先

株式会社 **J バイオ フード リサイクル**
神奈川県横浜市鶴見区弁天町3番地1
TEL : 045-505-7845



ウェブサイトはこちら